公益財団法人日本バスケットボール協会

平成25年度　第9回理事会 議事録

日　　時：平成25年12月11日（水）　13：00～17：00

場　　所：JBAオフィス　8F会議室

出　　席：＜理事＞

深津泰彦会長職務代行、丸尾充、梅野哲雄の各副会長、星芳樹専務理事、大神訓章、大山妙子、熊谷秀樹、坂本昌彦、佐々木三男、品田奥義、庄司義明、高橋雅弘、田窪徹、野村俊郎、原田茂、福井晴次、堀井幹也、水谷豊理事、吉田長寿の各理事

＜監事＞

高原洋太郎、松岡憲四郎、山崎均の各監事

＜特任委員＞

内山英司、小倉恭志、片山正明、西井歳晴、林直樹の各特任委員

欠　　席：麻生太郎会長、伊藤信明、鈴木秀太、吉田利治の各理事、上島正光特任委員

議　　題

（1）　報奨金の授与について

（2）　平成25年度功労表彰および表彰規程の改定について

（3）　暴力行為等の根絶に向けた対応について

（4）　役員候補者の選定に関する規程について

（5）　会長候補者選定委員会の委員の選任について

（6）　国体少年種別におけるU－16導入の実施内容について

（7）　3x3の登録および競技大会について

（8）　男子U－16日本代表について

（9）　ウインターカップ2013およびオールジャパン2014の修正予算について

（10）外国籍コーチに対する対応について

（11）暴力行為等に関する裁定委員会の答申について

1.　定足数の報告

堀井理事より出席者数の報告があり、定款32条に基づき、理事現在数（23名）の過半数の出席数（出席：19名）を満たすため、会議成立が宣せられた。

2.　挨拶

深津会長職務代行より開会の挨拶があった。

3.　議事

議長は深津会長職務代行が務めた。

（1）　**報奨金の授与について**（星専務理事）

「第3回FIBA ASIA U－16女子選手権大会」において準優勝し、来年開催されるU－17女子世界選手権大会への出場権を獲得したことについて、報奨金規程に基づき、報奨金を授与することが提案され、原案通り承認された。

尚、報奨金の授与については、男女U－16日本代表はウインターカップの表彰式、また、女子日本代表はオールジャパン女子決勝前に、それぞれヘッドコーチを招集して行うこととした。

＜承認＞

（2）　**平成25年度功労表彰および表彰規程の改定について**（堀井理事）

平成25年度の功労表彰について、各団体より推薦された11名、また、JBAからは副会長を務めた伊藤善文氏の計12名が候補者として推薦された。また、表彰に関する規程について、一部対象者の基準の見直しを含む案が提案され、功労表彰対象者および規程の改定内容のいずれも原案通り、承認された。尚、基本規程については評議員会の議決も必要なため、本案をもって3月の評議員会に提案することとした。

＜承認＞

（3）　**暴力行為等の根絶に向けた対応について**（堀井理事）

バスケットボールの指導における暴力行為等の根絶に向け、組織としての意識をより明確にするため、日体協、JOC、障害者スポーツ協会、高体連、中体連の5団体が採択した「スポーツ界における暴力行為根絶宣言」の尊重を基本規程第2条〔遵守義務〕に追加することが提案され、原案通り承認された。尚、前議案同様に本案にて次回評議員会に提案することとした。

＜承認＞

（4）　**役員候補者の選定に関する規程について**（堀井理事）

これまで見直しを含めて検討を進めてきた役員候補者の選定に関する規程の第4条について、ブロック推薦の理事、監事、特任委員、さらにブロック連絡会の意見等を踏まえ、第4条2項4号の都道府県協会推薦の理事数を3名から9名に変更することが提案され、原案通り承認された。尚、この案を理事会案として、3月の評議員会までにさらに評議員の代表者の意見等も集約し、3月の評議員会にて審議することとした。

＜承認＞

（5）　**会長候補者選定委員会の委員の選任について**（堀井理事）

来年6月の役員改選に向けて、役員候補者選定に関する規程に基づく会長候補者選定委員会を開催するため、理事代表の委員として、星専務理事より総務部長の堀井理事、ブロック代表の原田理事が推薦され、承認された。

＜承認＞

（6）　**国体少年種別におけるU－16導入の実施内容について**（野村理事）

国体少年種別のU－16導入の実施内容について日体協との調整を進めてきたが、競技力の観点から中学生を必ず2名以上含めたチーム構成にすることは好ましくないとの指導があり、「中学生1名以上が望ましい」という表記に変更することが提案された。この表記変更により、JBAとして機関決定した中学生の参加が

なくなってしまうことを懸念する意見などがあったが、修正案で進めない限りはU－16の導入自体も遅れていってしまうことが想定されることから、変更案を受け入れ、当初決定した中学生2名以上の参加を含むジュニア層の強化に向けては今後も継続して検討することが承認された。

<承認>

（7） 3x3の登録および競技大会について （吉田（長）理事）

3x3の今後の取り組みについて、前提としてTeamJBAの登録状況及び今後の拡大プラン、また、FIBAの方針、大会制度、FIBAプラネット等についての説明があった。その上で、来年度国内で実施する大会（日本選手権大会とその予選となる都道府県大会、今年度から継続のトーナメント大会、新たに発足するリーグ）の制度や位置付け、また、現状のTeamJBAに機能を追加し、オーガナイザー登録、3X3登録を行うことなどが提案された。3x3については新しい領域であり内容も多岐に渡ることから、提案内容の全体の方向性については承認し、次回の理事会でさらに各大会や事業内容および予算の説明を行っていくこととした。

また、FIBAから、今年の7月にお台場で行った3x3ワールドツアーマスターズを来年も日本で開催して欲しいとの依頼が来ていることが報告され、開催の方向で検討を進めていることが補足された。

<承認>

（8） 男子U－16日本代表について （星専務理事）

アンダーカテゴリーの強化の一環として実施する男子U－16日本代表チームのドイツ・チェコ遠征について、参加するスタッフおよび選手が提案され、原案通り承認された。

<承認>

（9） ウインターカップ2013およびオールジャパン2014の修正予算について （庄司理事）

ウインターカップおよびオールジャパンについて、協賛金および前回理事会で承認された警備の強化にかかる費用などを盛り込んだ各大会の修正予算が提案され、原案通り承認された。

<承認>

（10） 外国籍コーチに対する対応について （佐々木理事）

2015年度のコーチライセンス制度完全義務化に伴うトップリーグの外国籍コーチについて、当面の措置として暫定的にF級コーチ資格の規程を定めることが提案された。これについては、現トップリーグの実態を踏まえた調整を行う必要があることなどから、外国籍コーチに関する規程を設けることは了承するものの、名称、内容については再度検討し、提案することとした。

また、関連してオールジャパンのコーチ資格については、エントリースタッフ内にコーチライセンスを保有しているスタッフがいれば参加を認めており、今大会もそれにあわせて実施することが承認された。

<継続審議>

（11） 暴力行為等に関する裁定委員会の答申について （堀井理事）

山梨県内のチームに所属する指導者の体罰、暴言についての投書があり、裁定委員会にて事実確認の結果、平手で選手の肩を押した行為があったことが認められたが、審判の注意を受けた後はそのような行為を行っていないこと、暴言についても表現を誤って使っていたことを認識した後からは慎んでいること、暴行を受けたといわれている選手は暴行を受けたという認識はないことなどから、対象者には処分の科さないこと

が提案され、原案通り承認された。

＜承認＞

4．報告事項

報告事項に先立ち、松岡監事および山崎監事より、前回理事会で提出された業務監査報告に対する専務理事からの回答についての意見があり、堀井理事よりそれに対しての回答があった。

（1）**一般報告**（堀井理事）

２０１３年１１月の諸会議等の開催実績が報告された。

（2）**総務部**（堀井理事）

１月１２日、１３日に全国理事長会議を開催すること、ブロック連絡会の総括、今年度の競技者登録数は前年度を上回ったこと、２０１４年度以降の登録証（カード）については、前年度と同一チームの場合、カードは継続利用し、カードに貼付するシールを発行する予定であること、JOCの競技団体評価基準（NFランク）などについて報告された。

（3）**事業戦略部**（吉田（長）理事）

２０１４年度の国際親善試合について、開催希望地との日程調整や対戦国の調整を進めていること、ウインターカップのテレビ放送について、前回同様JSPORTでの全試合生放送に加え、BSフジでの男女決勝戦生放送が決定したことなどが報告された。

（4）**国際部**（星専務理事）

１１月２３日、２４日に行われたFIBA中央理事会の概要として、２０１４年度以降のＵ－１７およびＵ－１９世界選手権において新たな競技方式が導入されることなどが報告された。

（5）**3x3推進室**（吉田（長）理事）

3x3日本選手権プレ大会の出場チーム、大会日程等が報告された。

（6）**競技会委員会**（庄司理事）

平成26年度の競技日程の一部変更、国内大会および国際大会の結果などが報告された。

（7）**審判委員会**（堀井理事）

１０月に行われたFIBAASIAレフェリークリニックで、堀内純氏が新たに国際審判員として認定されたことなどが報告された。

（8）**女子ナショナル委員会**（高橋理事）

第3回FIBA　ASIA女子Ｕ－１６選手権大会では予選リーグ全勝で決勝トーナメントに進んだものの、決勝で中国に敗れ、準優勝となったこと、また、来年のＵ－１７女子世界選手権には、中国、日本、韓国の3ヶ国が出場することが報告された。

(9) テクニカル委員会　（佐々木理事）

コーチコミッティーグループおよびエンデバーグループの活動状況のほか、日本代表選手の育成に携わったコーチなどの表彰制度などを検討していることが報告された。

（10） 国体委員会　（野村理事）

国体開催地の視察状況などが報告された。

（11） 男子強化戦略委員会　（丸尾副会長）

前回理事会にて設置が決定した男子強化戦略委員会について、これまで3回の委員会を行ったこと、委員会としての考え方、進め方の概要が報告された。

（12） NBL　（丸尾副会長）

１２月２９日にNBLオールスターを開催し、「様々なカテゴリーのバスケットボールをつなげていく」をコンセプトに3x3、車椅子バスケットボールのエキシビジョンゲーム、子供向けイベント等も合わせて実施する予定であることが報告された。

（13） その他　（堀井理事）

車椅子バスケットボール男女日本代表が来年開催される世界選手権の出場権を獲得したことが報告された。

また、福岡県協会の堺理事長が一身上の都合により理事長を辞任され、同時に日本協会の評議員の辞任届も提出されたことが報告された。これについて、規程上評議員には47都道府県の代表が含まれていなければならないことから、評議員の追加選任を行うことが了承された。

5.　その他

原田理事より、国体での参加資格違反、WJBLでの登録規程違反、また先日東海ブロック起こったコーチライセンスの違反による没収試合など、ルールの徹底、チェックが適切に行われていないことから規程の見直しが必要ではないかとの意見があり、今後規程やエントリーシステム、現場での対応などを含めたアクションプランの検討が必要であることが確認された。

また、全国高体連専門部や全国中学生連盟の財政についての確認があり、全国高体連専門部については現在の活動にあった運営が出来るよう今後JBAと全国高体連専門部で協議を行うこととした。

以上